

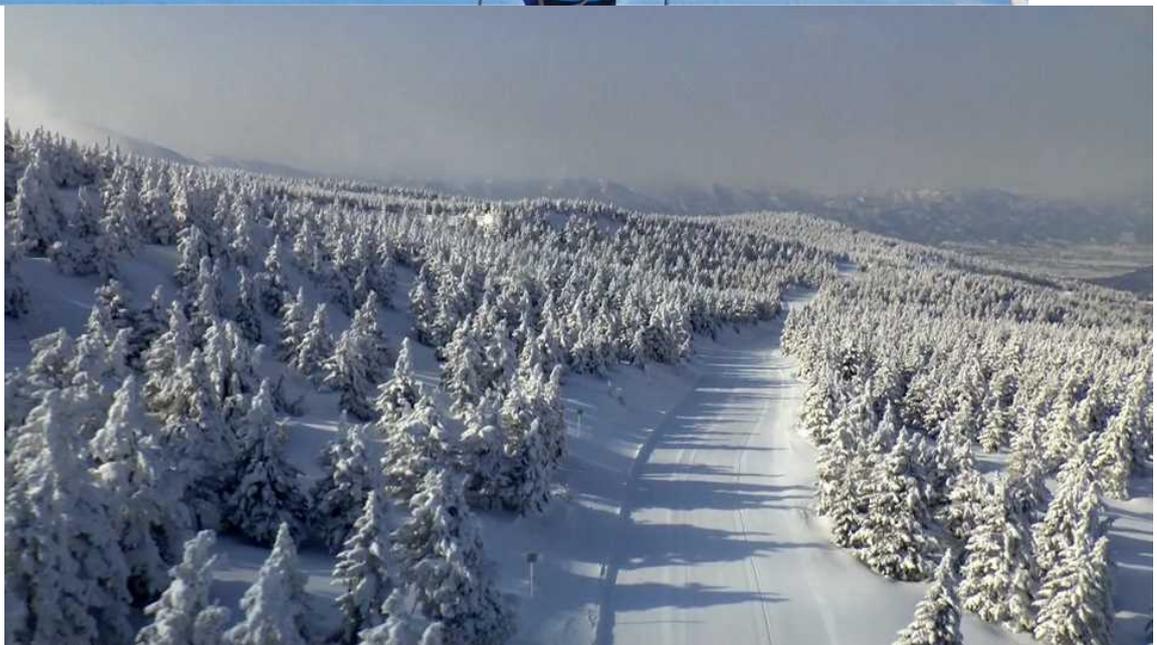
NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第92号(201703)

発行 竹田幸男



谷 弘子さん「憧れの蔵王」より

例会の窓

平成29年3月例会

日時：3月8日（水）13：30～

場所；市民活動センター4F こども部屋

出席者：新井 小笠原 佐伯 妹尾 竹田
谷 田淵

欠席者：1名（50音順・敬称略）

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項

(1) 会報 田淵さん

(2) 3月のビデオ作品発表会の計画

・日程：3/11（土）8：45集合

・当日の持参品・特にオーディオ関係の準備品と運搬撤収方法の打ち合わせ

・テレビは前の方が邪魔にならないように高い位置に置く必要がある。テーブルの上に50～60センチぐらいの台が必要か。松心会館に連絡して探してもらう。

・プレーヤーは、BDレコーダーを借りるが別途会のプレーヤーも持参する。

というのはBDレコーダーからは多分ピンプラグのオーディオラインは出ないがアンプにはピンプラグでつなぐ必要あり。テレビからオーディオアウトが出れば良いが、出なければ使えない。

・発表会作品BD、チラシ60枚、PRビデオ数枚、入会案内書、芳名書 竹田さん

・BDプレイヤー、マイク、アンプ、スピーカー、コード、看板、筆記用具等

・椅子35席、机3台プラス1台受付用

田淵さん

・司会：田淵さん 竹田さん

・操作：小笠原さん ・写真：谷さん

・受付：佐伯さん、谷さん

作品ごとに、1分以内で作品の説明をお願いします。

・打ち上げ 和の会席 3000円 「椿」の部屋 6名予定

(3) 今年の撮影会第1回は5月頃、要望があれば。

(4) 映像協会総会

・3/26（日）13：00から総会、その後合同例会

・作品の出品：新井さん、小笠原さんの作品

・出席者：竹田さん、新井さん、谷さん

(5) フレンド会員（仮称）の構想

(6) プレミア研究会（仮称）の構想

3. 映写・研究発表

・3/11ビデオ作品発表会の作品 鑑賞

部分的に音声レベルが高い所が有り、修正する。

4. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等 省略



金剛山登山

谷 弘子

2008年に金剛山登山を始めて、2016年11月には、念願だった100回登山を達成しました。

50回を達成したときも嬉しかったのですが、100回達成は感無量。いつものように捺印所で印を押してもらおう。

いままでに、アキレス腱切断、ひざを痛めたことも。又、何でもない所で転んでスマホを落としたり。

冒険みたいな気持ちで登ってみると危険な所があったり、こわい経験等もしました。金剛山登山は、なるべく一人では、行かないこと、そして無理をしないことが大切だと振り返ってみてそう思います。

100回の際は、家族でカトラ谷コースを登りました。



孫の登るスピードが速いため主人はついていくのが大変なので、今回はロープウェイを利用しゆっくり頂上へ来てもらうようにしました。

昼食はあったかいうどんや嫁の手作り弁当をおいしく頂きました。

バームクーヘンにろうそくで作られた100を並べおめでとう！

お祝いをしてもらいました。

2017年2月の恒例の雪中登山では、二十数名でぜんざいパーティ。主に私は写真撮影担当。

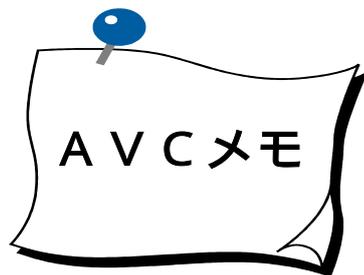
皆さんが積極的にぜんざいや紅茶等を準備してくださいませ。

この日もお祝いにとシャンパンで、「おめでとう！」乾杯して下さいました。

又、ハイキング仲間15名のグループで集まってカラオケを楽しんでいたら、突然の「サプライズ」。素敵なお花とケーキのお祝いをして頂きました。その時の写真は大切に残しています。

大好きな友人に感謝！
皆さん！ 本当に有り難うございます。

いつだったか忘れたけど私が「何のとりえもないんよ」と言ったら小学生の孫が「金剛山100回は、すごいことだよ」とほめてくれました。孫にほめられて、とても幸せでした。



キャプション・タイトル・テキスト
・テロップ・スーパーインポーズタイトル

竹田 幸男

会報87号に「キャプション」という題で記事を書きましたが、映像制作においてキャプションという言葉が示す内容には、上の表題にも挙げておられるように他にもいろいろの言い方があります。

ここに並べた言葉は、映像画面において、画面全体に比べて小さい文字を入れて、映像の内容を説明する単語や文章を入れる事を指します。

この目的に使われる用語としては、題名に挙げたように、様々な呼び方があります。雑誌記事や教科書、説明文等には、これらのうち、どれかだけが出てくる場合があるので、混乱する場合もあると思います。

エディウスではタイトルという言葉を使うようです。「クイックタイトラー」という機能が付いており、これによってタイトルもキャプションも同じように制作します。同じ機能を駆使して大きな文字で映像作品の名称を入れると「タイトル」になり、小さな文字で作品中の説明に使うと、「キャプション」も作れる、ということになります。

プレミア・エレメンツでは「タイトルとテキストパネル」という機能があり、「タイトルとテキスト」と呼び方を変えています。作品の題名を「タイトル」とし、作品の中で説明する単語や文章は「テキスト」であると使い分けています。このパネルを使って「タイトル」も「キャプション」も作れるのです。

一方、ビデオサロンで、たとえば2017年3月号42頁には「 ” 効く ” テロップ入門講座」という記事があります。ここでは「テロップ」という単語が使われています。

言葉の語源を辿ってみると、まず、キャプション。「caption」を英和辞書で引くと、

- 1 「(記事・論説などの)表題」、「タイトル」、「(章・節・頁などの)見出し」、
- 2 (新聞)・雑誌などの)写真・挿絵の説明文、
- 3 「映画・テレビの)字幕」 などと出てきます。タイトル、と言う意味もあります。「映画・テレビの字幕」は順位が下ですね。キャプションには、どうやら出版関係が元々使っていた言葉であるようなニュアンスがあります。

次に、タイトル。

「title」を英和辞書で引くと、

「(本・映画・絵などの)題名」が出てきます。

エディウスの場合は「キャプション」の意味にまで拡張して使っていますから、エディウスは「タイトルを作る」という編集ソフトウェアの「機能」を中心に命名しているように感じます。

次に、テキスト。

「text」を英和辞書で引くと

- 1 「(序文・注釈・付録・挿絵などに対して)本文」、
- 2 「原文」、
- 3 「原本」・・・となっています。プレミア・エレメンツでは「テキスト」が「キャプション」に対応付けられているようで、「テキスト」を「文字」の意味に使っているように感じます。

次に、テロップ。

「telop」を英和辞書で引いても訳語は出てきません。その訳は、テロップ (Telop)とはテレビ局で使われた「テレビジョン・オpaque・プロジェクター」(Television Opaque Projector = テレビ投射映写機)と呼ばれる装置の商標名で、後に一般名詞化されたものなので、辞書では出てきません。テレビ局では曾てこの装置を使って映像にキャプションを入れていたので、テレビ関係では「テロップ」が一般的なのだろうと考えます。

最後に、スーパー・インポーズ・タイトル。

これも複合語ですから英和辞書では出てきません。調べると「映画フィルムの上に

字幕を書き込んだフィルムを重ねて焼き付けたことから、このような名前になった」と言うことです。だから、映画関係ではこの言葉が使われたのだらうと思われま

す。以上のことから、「キャプション」は一般的な呼び方でしょうが、訳語の意味の中では「テレビの字幕」は順位が下になっています。

「タイトル」は「題名」という意味が大きいので映像の途中での説明に使う文字を指すには、ちょっと意味が曖昧になる気がします。

「テロップ」という言葉は、主としてテレビ局の現場で使われていたと思われるので、テレビの仕事をしていた人が記事を書くとき「テロップ」になるのでしょう。

「スーパー・インポーズ・タイトル」は語源からして映画関係で使われたと考え、映画業界出身者が原稿を書くとき「スーパー・インポーズ・タイトル・・・」となるでしょう。

ビデオサロンの記事を見ていると「テロップ」が多いように思います。ビデオサロンの執筆者には今のテレビ関係の仕事や、それに関係した業務の多い人が執筆しているように見受けま

す。このように、同じ事を違った言葉で表現されることがあるので、それぞれの言葉の背景に理解を持ちながら、どの言葉が使われても理解できるようにしておくことが大切であらうと思